

美術博物館の催し



ホームページ

企画展「具体美術協会と芦屋、その後」

■期間 7月5日～8月31日

関連イベント

講演会 具体美術協会と1970年の大阪万博

具体美術協会が日本万国博覧会(大阪万博)に関わるようになった経緯や活動を紹介し、その意義についてお話いただきます。

■日時 8月9日(土)午後2時～3時30分 ■会場 講義室
■定員 80人 ■講師 加藤瑞穂氏(美術史家) ■料金 要観覧料 ■申し込み 直接会場へ



日本万国博覧会「具体美術まつり」フィナーレ 1970

関連イベント

学芸員によるギャラリートーク



■日時 8月3日(日)午後2時～3時 ■会場 ホール・展示室
■講師 当館学芸員 ■料金 要観覧料 ■申し込み 直接会場へ

吉田稔郎《作品》1959年 ミクストメディア、布 芦屋市立美術博物館蔵

関連イベント

講座「1970年代の芦屋の芸術ー芦屋川国際ビエンナーレ、ルナ・フェスティバルなど」

文化・芸術の領域を拡げた「芦屋川国際ビエンナーレ」「第3回ルナ・フェスティバル」、芦屋在住の実業家・植野藤次郎の理念のもとに創設された「ジャパンエンバ美術コンクール」や「具体」の登竜門として知られ現在も続く芦屋市展を紹介し、「具体」が芦屋へもたらした影響とその革新性についてお話します。

■日時 8月17日(日)午後2時～3時 ■会場 講義室 ■定員 80人 ■講師 大槻晃実(当館担当学芸員) ■料金 要観覧料 ■申し込み 直接会場へ



第1回芦屋川国際ビエンナーレ 1972 ©松谷武判アーカイブス

【問い合わせ】美術博物館 ☎38-5432 / FAX 38-5434 / ✉ashiya-bihaku@shopro.co.jp (〒659-0052 伊勢町12-25) 【開館時間】午前10時～午後5時(入館は4時30分まで) 【休館日】月曜日(祝日の場合は、その翌日) 【観覧料】一般900(720)円、大高生500(400)円、中学生以下無料※()内は20人以上の団体料金※高齢者(65歳以上)および身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方とその介護の方は各当日料金の半額

谷崎潤一郎記念館の催し



ホームページ

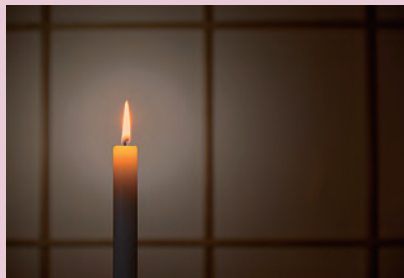
ロビー展示

群馬県立土屋文明記念文学館移動展 怪談～こわい話に花が咲く～

明治・大正時代を中心に、文豪も手がけた怪談奇談を紹介するパネル展。

【主な執筆者】谷崎潤一郎・三遊亭円朝・小泉八雲・太宰治ほか

■期間 7月30日～9月7日



関連イベント

怪談朗読

■日時 8月30日(土)午後3時30分～ ■定員 45人(要予約)
■講師 坂本知恵氏(朗読グループ「古都」) ■料金 要観覧料 ■申し込み 谷崎潤一郎記念館へ

谷崎館講座

名作をひもとき名文を朗読(よむ)

谷崎館の美しい庭に囲まれながら名文の朗読をしませんか? 芦屋を舞台にした谷崎潤一郎「細雪」をはじめ、宮沢賢治・川端康成などの名作をひもとき、文学に浸るひと時をもちましよう。

■日時 毎月第1(水)午後2時～4時※8月の講座のみ7月の第5(水)に変更、8月に講座は行われません。

■会場 講義室 ■定員 16人(要予約) ■講師 前田伊都子氏(「おおぞらドラマカンパニー」所属) ■料金 9,000円(3カ月分前納)※テキストとして本を一冊購入していただく場合があります。 ■持ち物 筆記用具 ■申し込み 谷崎潤一郎記念館へ



前田伊都子氏

【問い合わせ】谷崎潤一郎記念館 ☎23-5852 / FAX 38-3244 / ✉ashiya-tanizakikan@shopro.co.jp (〒659-0052 伊勢町12-15) 【開館時間】午前10時～午後5時(入館は4時30分まで) 【休館日】月曜日(祝日の場合は、その翌日) 【観覧料】一般500(400)円、大高生300(240)円、中学生以下無料※()内は20人以上の団体料金※高齢者(65歳以上)および身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方とその介護の方1人は各当日料金の半額

市内の文化財案内 Vol.5

寺田遺跡(西芦屋町)で出土した直径34.6cm、高さ9.3cmの陶器で、黄色の釉薬が内面全体に施されており、底部内面には褐色の鉄絵(酸化鉄を含む顔料による絵付け技法)によって、一輪の牡丹の文様が描かれています。中国福建省産で、平安時代末～鎌倉時代初頭(12世紀末～13世紀初頭頃)の

芦屋市指定文化財 寺田遺跡出土黄釉鉄絵陶器盤

こうゆうてつえとうきばん

問い合わせ 国際文化推進課 ☎ 38-2115



ホームページ

日宋貿易によって、貿易港・博多を経由して芦屋にもたらされました。博多では出土しているものの、全国的にはめずらしく、兵庫県下では本資料と尼崎市の大物遺跡で出土したもののみです。このように、当時の芦屋の国際性を考える上で貴重な資料です。